



国際委員会

国際委員会前担当理事 上月正博

国際委員会は、リハビリテーション科専門医の国際交流や海外のリハビリテーション科医や関連学会との連携を図るとともに、海外での本医学会の存在意義をいっそう高めるため、多岐にわたる活動を行っています。委員交代に際しては、国際交流にも多くの実績がある本医学会会員を積極的に任命するようにしたことで、委員会機能のいっそうの拡充が図られています。

具体的な活動としては、①本医学会会員海外研修補助プログラムの募集と選定、②外国人リハビリテーション科医対象の短期交流補助プログラムの募集と選定・実施、③ Honorary/Corresponding Member の拡充、④英文ホームページの整備、⑤英文 Annual report の作成、⑥世界、特にアジア諸国の実態把握と協力関係促進、⑦ ISPRM への貢献、⑧各種リハビリテーション関連国際会議の情勢調査、⑨日本のリハビリテーション医療での COVID-19 対策の海外への紹介、などを行っています。

COVID-19 のために国際学会参加や施設訪問などの交流は滞りがちでしたが、この間はわが国の COVID-19

患者に対するリハビリテーション医療に関する英語論文のリストを作成し英文ホームページに掲載してきました。最近では COVID-19 も落ちついてきたため、国際交流に対する応募者も増加してきました。従来の海外研修特別補助を若手海外研修補助に変更し、対象とする学会を AOCPRM (Asia-Oceanian Conference of Physical and Rehabilitation Medicine) からアジアにおけるさまざまなリハビリテーション医学関連学会に拡大しました。

さらに、広報委員会と連携して英文ホームページを大きく刷新するとともに、理事長名で各国のリハビリテーション医学会あてにメールを発信し、本医学会の首脳部人事の変更を周知し、いっそう充実した国際協力の申し出を積極的に行いました。本医学会会員の皆様も本医学会英文ホームページが見違えるように充実し、本医学会の活動がいっそう世界に周知されていることをご確認いただければと思います。

皆様は本医学会の制度を利用して、海外でも大きく活躍していただきたいと思います。

財務委員会

財務委員会統括副理事長 美津島 隆

財務委員会は、年度ごとに収入、支出項目を個々検討し、予算案の作成、決算報告を行い、医学会運営の舵取りを行っている委員会です。委員会のメンバーはすべて理事で構成されています。

本医学会は公益法人であることから、税制面で優遇されていますが、収入を得るためにいろいろな制限が加えられています。

本医学会の重要な収入源は主に3つ、医学会会員の皆様に納めていただいている年会費、学術集会の余剰金、医学会が主宰する各種研修会の参加費です。

本医学会の財務体質は学術集事業の収入と支出がそれぞれ予算の半分以上を占めるため、必ずしも強いとはいえません。簡単にいうと学術集会収入の多寡がそのまま医学会運営に大きく影響するということなのです。「入るを量りて、出るを為す」というような財政運営がしづらいことが問題点といえるでしょう。

そのため皆様からの大切な年会費を1円も無駄にしないよう、予算編成は慎重に行われております。昨年度は医学会誌を紙媒体から電子媒体に変更することで、支出を大幅に抑えることができました。しかしながらコロナ禍のように不測の事態によって赤字を余儀なくされる場合があります。また最近のインフレが財務内容を圧迫し、医学会運営を厳しくしています。そのため予算編成の段階から、節約を念頭に置いて無駄な出費をしないよう努力しております。本医学会の各種委員会の活動においてもできるだけオンラインで行っていただくようお願いし、医学会事務局の職員の方にも鉛筆一本の節約から節電・節水に至るまで努力していただいております。この場を借りて御礼申し上げます。

今後も財務規律を保って、健全な財務運営を行う所存ですので、ご協力のほどお願いいたします。